

ニ関スル意見ハ単ニ参考ニ供スルニ過キスシテ必ラスシ
モ一致スルヲ要セズ單ニ州政府ノ自由意志ハ日本人ヲ差
別的ニ待遇スルニアラサレハ足レハナリ

三、閣下ノ知ラルル如ク自分ハ苟クモ非公式解決ヲ遂ケン
トスルニハ自分ハ日本ノ代表者タルト同時ニ是非共自分
ヲ州政府ノ益友タルノ地位ニ置カサレハ不可ナリトノ信
念ヲ有スルモノニシテ實際州政府ノ立場ヲ日本政府ヘ弁
解シタルコト一再ニシテ止マラサリシナリ要スルニ双方
ノ利益ヲ調和セントシツツアル自分ノ誠意未タ貫徹シ居
ラサルヤモ計ラレサルニ付此点閣下ヨリ御説明ヲ乞フ
四、自分ノ誠意先方ニ知レ候上ハ尚非公式解決ノ望ナシト
言フ可カラズト信スルニ付日本政府ヘ右ノ意見ヲ上申シ
置キタレバ多分差向キ反對ノ訓令ニ接セサルヘシト思考
ス

五、此上閣下ヲ煩ハスハ恐縮ニ堪ヘサレトモ自分ハ今本件
ヲ直チニ國際問題トスルコトハ双方ノ利益ニアラズト信
スルモノナルニ付御帰國ノ際州政府ノ回答案ヲ基礎トシ
テ立案シタル文書ノ往復ニテ円満解決ヲ得候様何分ノ御
尽力ヲ煩シ度候

六、文書交換ノ對手ハ当方ハ自分ニテモ在聖總領事ニテモ
又先方ハ統領副統領デナクトモ農務長官ニテモ差支無之
又文書交換ノ目的ハ單ニ日本ヘ報告スル確言の報告ノ基
礎ヲ得ルニ過ギサル而已ナラズ本件ノ起原及解決方法ノ
世間ニ知ラルルコトハ好マシカラサルニ付可成当局者間
ノ知了ニ止メ置キ度シ

七、在聖松村總領事ニ閣下在聖中閣下ト交渉ヲ委任致候ニ
付同總領事伺候ハハ御面会被下度候

註 別紙第一、二、三、四各号ノ原文省略

事項一六 朝鮮ニ於ケル外国居留地整理一件

四四三 一月十四日

在本邦独國大使ヨリ
牧野外務大臣宛

在鮮各國居留地廢止議定書是認問題ニ対スル

獨國政府ノ態度回示ノ件

Kaiserlich

Deutsche Botschaft

Tokio, den 14. Januar, 1914.

Herr Minister

Euerer Exzellenz beehre ich mich auf das gefäl-
lige Schreiben vom 27. August vorigen Jahres Nr.
87 betreffend die Fremdenniederlassungen in Chosen,
mitzuteilen, dass die in dem Protokoll von Söul hin-
sichtlich der Fremdenniederlassungen getroffenen Ver-
abredungen von der Kaiserlichen Regierung als Grund-
lage für eine endgiltige Vereinbarung mit der Kai-
serlich Japanischen Regierung angenommen werden,
sofern auch die übrigen beteiligten Regierungen zu-
stimmen, und unter der Voraussetzung, dass Zuge-
ständnisse, die etwa irgend einer anderen Macht

wegen des Erwerbs und der Übertragung koreanischer
Grundstücke gewährt werden, auch dem Deutschen
Reich gemacht werden.

Ich ergreife die Gelegenheit Euerer Exzellenz die
Versicherung meiner ausgezeichnetsten Hochachtung
zu erneuern. (gez.) Rex.

Seiner Exzellenz
dem Kaiserlich Japanischen Minister
der Auswärtigen Angelegenheiten
Herrn Baron Makino.

(右和訳文) (註 日本外務省作成)

千九百十四年一月十四日東京ニテ

独逸帝國大使館第一号

レ ッ ク ス

日本帝國外務大臣 牧野男爵閣下

朝鮮外国人居留地ニ関スル客年八月二十七日附第八七号貴
翰ニ対シ本使ハ若シ他關係各國政府モ亦之ニ同意スルニ於

テハ而シテ朝鮮ノ土地取得及讓渡ノ為メ何レカ他ノ一國ニ与ヘラルヘキ讓与カ独逸帝國ニ對シテモ亦為サルヘキコトヲ條件トシテ該居留地ニ關スル京城議定書ニ定メラレタル取極カ日本帝國政府トノ確定約定ノ基礎トシテ帝國政府ヨリ承認セラルコトヲ閣下ニ通報スルノ光榮ヲ有シ候

本使ハ此機會ヲ利用シテ閣下ニ向テ茲ニ重ネテ敬意ヲ表シ候 敬具

註 日本外交文書大正二年第一冊二一八文書

四四四 一月二十一日 牧野外務大臣ヨリ
寺内朝鮮總督宛

在鮮各国居留地廢止下協議會ノ議定書是認方

ノ我提議ニ對シ在本邦獨國大使ヨリ回答ノ件

政送第四号

朝鮮居留地整理ノ件ニ關シ別紙寫ノ通在本邦獨國大使ヨリ回答有之候ニ付訳文相添茲ニ差進候間御査閱相成度此段申進候也

註 別紙独逸文寫及訳文前掲ニ付省略ス

四四五 二月十七日 牧野外務大臣ヨリ
寺内朝鮮總督宛

官秘第一四号

(二月二十六日接受)

大正三年二月二十三日

朝鮮總督府政務總監 山県伊三郎(印)

外務次官 松井慶四郎殿

本件ニ關シ本月十七日附政送第一九号ヲ以テ貴省大臣ヨリ總督宛御照會ノ趣了承仁川ニ於ケル仁川俱樂部、テニス俱樂部及青年會ノ借地契約ハ各国居留地會カ旧韓國政府ヨリ永代借地トシテ取得シタル土地ノ一部ヲ更ニ一定ノ期限ヲ附シテ賃貸シタルモノニシテ該契約ノ繼承者ハ地方団体タル府ニ有之居留地撤廢後ハ該土地ハ日本法人タル府ニ移リテ其所有ニ歸スルヲ以テ結局府ヨリ右等俱樂部及青年會ニ引続キ賃与スルコトトナル筈ニ有之候尚永代借地權ハ從來日本人モ外人同様之ヲ享有シ来リ候処居留地制度廢止ノ實行ト同時ニ日本人ノ分ハ法令ニ依リ一切之ヲ所有權ニ變更シ又將來日本人カ永代所有權ヲ取得シタル場合ハ内地同様所有權ニ變更セシムル筈ニ有之此段及回答候也

四四七 二月二十五日 松井外務次官ヨリ
山県朝鮮總督府政務總監宛(電報)

在鮮各国居留地整理ニ關連シ仁川俱樂部等ノ借地契約引繼ニ關スル疑義及日本人ニ移転シタル永代借地權ノ取扱振ニ付問合ノ件

政送第一九号

本件ニ關シ客年十一月二十一日附官秘第二二号ヲ以テ御回示ノ趣了承右貴答中仁川ニ於ケル仁川俱樂部、テニス俱樂部及青年會ノ借地契約ヲ府ノ義務中ニアルモノトシテ之ヲ引繼クコトハ御異存無之旨御申越相成候処是等借地契約ト他ノ一般永代借地契約トノ相違セル点並ニ他日公用徵收等ノ必要起ルカ如キ場合ニハ今日無条件ニ借地契約ヲ府ノ義務トシテ引繼クモ支障無之哉等承知致度尚本件ニ關聯シテ朝鮮ニ於ケル永代借地權カ日本人ニ移転シタル場合ニハ内地同様普通ノ所有權ニ變更セラルヘキモノナリヤ從來ノ御取扱振並將來ノ御方針承度候間何分ノ儀至急御回示相成度此段併セテ及照會候也

四四六 二月二十三日 山県朝鮮總督府政務總監ヨリ
松井外務次官宛

仁川ノ仁川俱樂部等ノ借地契約及日本人ニ移転シタル永代借地權ニ付回答ノ件

露、仏、白國ノ在鮮領事館敷地及建物免税ハ

先方ノ要求通り容認シ差支無キヤ問合ノ件

第五号

客年十一月二十一日附官秘第二二号貴信ニ關シ露仏及白國ニ与フヘキ領事館敷地及建物免税ノ保障ハ先方ノ要求ヲ其儘容認スルニアラサレハ急ニ本件解決ノ見込ナキニ付右様取計ヒテ御異議ナキヤ回電アリタシ

四四八 二月二十六日 山県朝鮮總督府政務總監ヨリ
松井外務次官宛(電報)

在鮮外国領事館敷地及建物免税ノ保障ニ關シ

回答ノ件

貴電第五号外国領事館敷地及建物免税ノ件ハ議事録ノ文言通りノ保障ヲ与ヘラレ異議ナシ

四四九 三月十三日 山県朝鮮總督府政務總監ヨリ
松井外務次官宛(電報)

在鮮各国居留地廢止正式協定ノ調印結了日時

問合ノ件

第二号

各国居留地廢止ニ關スル正式協定調印ハ何日頃結了ノ御見

込ナリヤ返電ヲ請フ

四五〇 三月十四日 松井外務次官ヨリ
山県朝鮮總督府政務總監宛(電報)

在鮮各国居留地廃止協定結了時期ノ件

第六号

貴電第二号ニ関シ可成速カニ協定結了セシムル様可致モ期
日ノ辺ハ目下確答シ難シ

四五二 三月十七日 牧野外務大臣ヨリ
在本邦英国大使宛

在鮮各国居留地廃止下協議会ノ議定書是認ニ

付提起セラレタル諸疑点ニ関シ説明ノ件

政送第二四号

以書翰致啓上候陳者朝鮮ニ於ケル各国居留地撤廃ノ件ニ関
シ客年四月廿一日京城ニ於テ調印セラレタル議定書ニ付貴
国政府ハ大体ニ於テ御異議無之ニ依リ文書往復ノ形式ニ依
リ右ノ議定書ヲ是認スルコトヲ承諾セラルヘキモ右是認前
予メ数点ニ関シ満足ナル解決ヲ要スル旨ヲ以テ客年十月八
日附書翰ヲ以テ縷々御来示ノ趣致敬承候本件議定書カ大体
ニ於テ貴国政府ノ御承認ヲ得タルハ本大臣ノ深ク満足スル

来取得セラルルコトアルヘキ權利ノ処分ニ言及セサリ
シハ寧ロ当然ニ有之候尤モ後段述フルカ如ク各国及韓
国間ノ旧条約ハ韓国併合ト共ニ消滅シ日本及各国間ノ
条約カ之ニ代リテ韓国ニ適用セラルルニ至リシ次第ナ
ルヲ以テ其ノ当然ノ結果トシテ外人カ朝鮮ニ於テ土
地ノ所有權又ハ永代借地權ヲ取得スルヲ得ルノ條約上
ノ權利ハ併合ト同時ニ消滅シタルモノニ有之從テ本件
議定書ノ為毫モ地理的ニ現在ノ權利ヲ局限スル次第第
ハ無之候

四、議定書第四条ノ規定ニ依リ所有權ニ変更セラレタル權
利ハ内外人ヲ問ハス之ヲ讓渡シ得ルコト並ニ住所又ハ
住居地ニ関シ何等ノ差別又ハ制限ヲ設ケサルコトニ付
帝国政府ノ保障ヲ得度御希望ナル処議定書第四条ニハ
永代借地權ヨリ変更セラレタル「所有權ハ在朝鮮日本
国臣民ノ有スルモノト同一ノ基礎ニ置カルルコト」ナ
ル規定有之從テ在朝鮮日本臣民ニ同一ノ制限ヲ加ヘサ
ル以上本件所有權ノ讓渡ニ関シテモ亦何等制限ヲ加ヘ
難キ次第ニ有之而シテ朝鮮ニ於テ英国臣民カ日本国臣
民ノ享有スルモノヨリモ一層大ナル權利ヲ有スルコト

処ニ有之而シテ貴翰中ニ御詳述ノ諸点ニ関シ慎重ナル考量
ノ末本大臣ハ貴国政府ニ対シ左ノ説明ヲ提出致候

一、本件議定書中ノ異リタル文字カ特殊ノ事由ナキ限各異
リタル意義ヲ有スルモノト解セラルヘキモノナルハ申
ス迄モ無之從テ貴翰(1)ニ御指摘相成候議定書第一条ノ
「コムミュニンス」ナル文字カ新行政区劃ナル府ヲ指
称スルコトハ事実ナレトモ同第七条中ノ「ローカル、
オア、ミニシパル、タクセス」ナル文字ハ單リ府ノ
課スル租税ノミナラス其他ノ地方的課税例ヘハ道税ノ
如キモノヲ包含スルモノナルハ明白ニ有之候

二、仁川ニ於ケル仁川俱樂部、テニス俱樂部及基督教青年會
ノ借地契約ヲ府ノ義務中ニアルモノトシテ之ヲ引繼ク
ヘキコトヲ議定書是認ニ関シ往復セラルヘキ文書中ニ
記入方御希望ニ付テハ帝国政府ニ於テ異議無之候

三、議定書第四条中ニ旧各国居留地内又ハ新行政区劃中ニ
存在セル未タ占有セラレサル土地ヲ将来取得スル場合
ニ関スル規定ヲ欠ケルハ地理的ニ現在ノ權利ヲ局限ス
ルモノナリトノ貴見ニ付テハ本件議定書ハ固ヨリ現存
ノ永代借地權ノ処分ノミヲ規定セルモノナルヲ以テ將

ヲ貴国政府ニ於テ希望セラルルモノトハ思考難致儀ナ
ルニ付帝国政府ハ貴国政府カ右国民待遇ノ保障ヲ以テ
満足セラルルコトヲ期待スル次第ニ有之候

貴翰中右以外ノ部分即旧韓英條約ノ規定ニ依ル(a)漢陽、楊
華鎮、釜山及元山等各国居留地ナキ場所(b)朝鮮開港場ニ於
ケル旧各国居留地ノ周圍十韓里内ノ地域及国内法ノ規定ニ
基ク(c)朝鮮全部ニ於ケル英国臣民ノ土地所有權取得ノ權能
ノ問題ニ関シテハ左ノ事實ニ付閣下ノ御注意ヲ喚起致候
イ、帝国政府ハ韓国併合ノ際為シタル宣言中「韓国ト列國
トノ條約ハ当然無効ニ歸シ日本國ト列國トノ現行條約
ハ其ノ適用シ得ル限朝鮮ニ適用セラルヘシ、朝鮮ニ在
留スル諸外國人ハ日本法權ノ下ニ於テ事情ノ許ス限日
本内地ニ於ケルト同一ノ權利及特典ヲ享有シ且其ノ適
法ナル既得權ノ保護ヲ受クヘシ」ト明言セルコト

ロ、當時加藤駐英大使ハ千九百十一年二月十六日附サー、
エドワード、グレイ宛公文中帝國政府ノ訓令ニ基キ前
項帝國政府ノ宣言中韓国併合前外國人カ朝鮮ニ於テ取
得セル土地所有權及鉱業權等所謂既得權ノ保護ニ関シ
詳細ナル説明ヲ為シタル後「唯茲ニ附言スヘキコトア

リ即チ外国人カ朝鮮ニ於テ土地所有權及鉱業權ヲ取得スル權能ニ付テハ帝國政府ハ將來ニ向テ永ク約束スルコトヲ得サルモ少クトモ当分ハ外人ニ此ノ權能ヲ許与スル現行法制ヲ維持スル方針ナルコト是ナリ」ト陳ヘタルニ對シサー、エドワード、グレーハ同年四月二十二日附公文ヲ以テ右加藤大使ノ公文ニ記セル帝國政府ノ説明ハ英國政府ノ満足トスル所ナリト回答セラレタルコト

右ノ事實ニ依リ(一)韓國カ各國ト締結セル諸條約ハ韓國併合ト共ニ當然無効ニ歸シタルコト(二)帝國政府ハ將來外人ニ朝鮮ニ於テ土地所有權ヲ取得スルコトヲ認メタル現行法ヲ改廢スルノ自由ヲ留保セルコト及(三)貴國政府ハ帝國政府ノ此ノ態度ヲ以テ満足セラレタルコトハ疑ヲ容ルルノ余地無之ト存候

斯ル事態ノ下ニ於テ貴國政府カ此ノ既決ノ問題ヲ再ヒ提起セラレムトスルハ本大臣ノ寧ロ怪訝ニ禁ヘサル処ニ有之候勿論韓國併合前ニ外人カ同地ニ於テ取得シタル土地所有權ハ單リ貴國中(a)及(b)ナル地域内ニ於ケルモノノミナラス(c)即チ朝鮮全部ニ於ケルモノト雖モ帝國政府ノ宣言及其後

四五二 三月二十日 牧野外務大臣ヨリ
在本邦米國大使宛

在鮮各國居留地廢止下協議會ノ議定書是認ノ

形式完結ノ件

政送第二五号

以書翰致啓上候陳者客年四月廿一日京城ニ於テ調印セラレタル在朝鮮各國居留地廢止ニ関スル議定書ヲ其儘是認スルコトハ貴國政府ニ於テ御異存無之旨並右議定書記載ノ條項變更ノ場合ニハ米國人民ハ他ノ關係諸國人ヨリモ不利益ナル地位ニ置カレサルヘキ條件ヲ以テ文書往復ノ形式ニ依リ本件議定書是認方ニ付閣下ニ於テ權限ヲ受ケラレタル旨客年十月二日附貴國ヲ以テ御來示ノ趣致敬承候
右御來示ノ條件ハ帝國政府ニ於テ異存無之依テ右貴國ニ對スル回答タル本書面ヲ以テ本件議定書ノ是認ニ必要ナル文書往復ノ形式ヲ完結スルコトト致度候
右申進旁本大臣ハ茲ニ重ネテ閣下ニ向テ表敬意候 敬具

註 添附ノ英訳文ヲ省略ス

四五三 三月二十日 牧野外務大臣ヨリ
在本邦米國大使宛

貴我往復ノ主旨ニ基キ保護セラルヘキモノニ有之又今回議定書ノ規定ニ依リ永代借地權ヨリ變更セラルヘキ所有權ハ右議定書ノ規定ニ從ヒ日本臣民及最惠國民ト同等ノ待遇ヲ受クヘキモノニ有之候ヘトモ朝鮮ニ於ケル外人ノ土地所有權ニシテ前記ノ二種ニ屬セサルモノニ至リテハ其現存ノ權利タルト將タ將來取得セラルヘキモノタルトヲ問ハス純ハラ帝國ノ法令ノミニ依リ保護セラルヘキモノニ有之而シテ將來外人土地所有權取得ノ權能ノ問題ハ前頭ノ如ク貴我兩國政府間ニ於テ既ニ満足ナル解決ヲ經タルモノナルカ故ニ貴國ニ依ル御要求中此ノ既定ノ解決ヲ全然無視シ且之ト納鑿相容レサルカ如キ部分ニ付テハ遺憾乍ラ帝國政府ニ於テ考量難致次第ナルハ貴國政府ノ御諒解相成候事ト存候終ニ臨ミ本大臣ハ貴國政府カ既ニ大體上承認ヲ与ヘラレタル本件議定書ノ是認方ニ関シ此上何等故障ヲ提起セラレサルヘキハ帝國政府ノ確信スル処ナル旨ヲ附言スルノ光榮ヲ有シ候

右申進旁本大臣ハ茲ニ重ネテ閣下ニ向テ敬意ヲ表シ候敬具
註1 日本外交文書大正二年第一冊二四文書附屬書
2 同右二四文書

在鮮各國居留地廢止下協議會ノ議定書是認ノ

形式完結ノ件

政送第二二号

以書翰致啓上候陳者客年四月廿一日京城ニ於テ調印セラレタル在朝鮮各國居留地廢止ニ関スル議定書是認方ノ件ニ関シ右議定書ヲ其儘是認スルコトハ貴國政府ニ於テ御異存無之旨並他ノ關係各國政府ト同一條件ヲ以テ本件議定書是認ニ付何時ニテモ文書ノ往復ヲ行ハルヘク而シテ愈本件議定書是認ノ際ニハ客年二月廿六日京城ニ於ケル第二會議ノ席上小松外事局長ノ為シタル「朝鮮全土ヲ通シ領事館トシテ用ヒラルル外國政府ノ財産―土地及建物―ハ總テ國稅及府稅ヲ免除セラルヘシ但シ右地所ニ對スル永代借地權ヲ所有權ニ變更シタル場合ニ限ル」トノ言明ヲ本件議定書是認ニ関シ往復セラルヘキ文書中ニ明記シタキ御希望ノ旨客年九月十七日附ヲ以テ閣下ノ前任ア、ゼラール閣下ヨリ御來示ノ趣致敬承候

右御來示ノ條件ハ帝國政府ニ於テ異存無之候依テ右ア、ゼラール閣下ノ書翰ニ對スル回答タル本書面ヲ以テ本件議定書是認ニ関シ必要ナル文書ノ形式ヲ完結スルコトト致度候

右申進旁本大臣ハ玆ニ重ネテ閣下ニ向テ表敬意候 敬具

註 右ノ仏訳文省略

四五四 三月二十日 牧野外務大臣ヨリ
在本邦露国大使宛

在鮮各国居留地廃止下協議会ノ議定書是認ノ

形式完結ノ件

政送第二四号

以書翰致啓上候陳者客年四月二十一日京城ニ於テ調印セラレタル在朝鮮各国居留地廃止ニ関スル議定書ハ貴国政府ニ於テ之ヲ是認セラレタル旨尤モ右議定書作成ニ関スル議事録中ニ記載セル客年二月廿六日京城ニ於ケル會議ノ席上朝鮮總督府外事局長ノ為シタル「朝鮮全土ヲ通シ領事館トシテ用ヒラルル外国政府ノ財産―土地及建物―ハ總テ国税及府税ヲ免除セラルヘシ但シ右地所ニ對スル永代借地權ヲ所有權ニ變更シタル場合ニ限ル」トノ言明ハ貴国政府ニ於テ本件協定ノ一部分ト看做サルヘキ旨客年八月三十日附貴翰ヲ以テ御来示ノ趣致敬承候
右御来示ノ趣ハ帝國政府ニ於テ異存無之依テ貴翰ニ對スル回答タル本書面ヲ以テ本件議定書ノ是認ニ必要ナル文書往復ノ形式ヲ完結スルコトト致度候

四五六 三月二十日 牧野外務大臣ヨリ
在本邦伊国大使宛

在鮮各国居留地廃止下協議会ノ議定書是認ノ

形式完結ノ件

政送第六号

以書翰致啓上候陳者客年四月二十一日京城ニ於テ調印セラレタル在朝鮮各国居留地廃止ニ関スル議定書ヲ其儘是認スルコトハ貴国政府ニ於テ御異存無之旨並閣下ハ右是認ニ関スル文書ノ往復ニ付必要ナル權限ヲ受ケラレタル旨客年九月二十一日附貴翰ヲ以テ御来示ノ趣致敬承候
依テ右貴翰ニ對スル回答タル本書面ヲ以テ本件議定書ノ是認ニ必要ナル文書往復ノ形式ヲ完結スルコトト致度候
右申進旁本大臣ハ玆ニ重ネテ閣下ニ向テ表敬意候 敬具
註 添附ノ仏訳文ヲ省略ス

四五七 三月二十日 牧野外務大臣ヨリ
在本邦白国公使宛

在鮮各国居留地廃止下協議会ノ議定書是認ノ

形式完結ノ件

政送第一一号

右回答申進旁本大臣ハ玆ニ重ネテ閣下ニ向テ表敬意候敬具

註 添附ノ仏訳文ヲ省略ス

四五五 三月二十日 牧野外務大臣ヨリ
在本邦独国大使宛

在鮮各国居留地廃止下協議会ノ議定書是認ノ

形式完結ノ件

政送第一五号

以書翰致啓上候陳者客年四月二十一日京城ニ於テ調印セラレタル在朝鮮各国居留地廃止ニ関スル議定書ニ関シ若シ他關係各国政府モ亦之ニ同意スルニ於テハ而シテ朝鮮ノ土地取得及讓渡ノ為何レカ他ノ一国ニ与ヘラルベキ讓与カ独逸帝國ニ對シテモ亦為サルヘキコトヲ条件トシテ貴国政府ニ於テ右議定書ヲ其儘是認セラルルコトニ御異存無之旨本年一月十四日附貴翰ヲ以テ御来示之趣致敬承候
右貴翰ヲ以テ御来示ノ条件ハ帝國政府ニ於テ異存無之依テ右貴翰ニ對スル回答タル本書面ヲ以テ本件議定書ノ是認ニ必要ナル文書往復ノ形式ヲ完結スルコトト致度候
右申進旁本大臣ハ玆ニ重ネテ閣下ニ向テ表敬意候 敬具
註 一月十四日附在本邦独国大使書翰ハ前掲四四三文書

以書翰致啓上候陳者客年四月二十一日京城ニ於テ調印セラレタル在朝鮮各国居留地廃止ニ関スル議定書是認ノ件ニ関シ貴国政府ハ他ノ關係諸国ト同一条件ヲ以テ之ヲ是認セラルルコトニ御異存無之ニ付閣下ハ右是認ニ関シ帝國政府ノ申出タル文書往復ヲ行フヘキ權限ヲ授ケラレタル旨並愈本件議定書是認ノ際ニハ客年二月廿六日京城ニ於ケル第二會議ノ席上小松外事局長ノ為シタル「朝鮮全土ヲ通シ領事館トシテ用ヒラルル外国政府ノ財産―土地及建物―ハ總テ国税及府税ヲ免除セラルヘシ但シ右地所ニ對スル永代借地權ヲ所有權ニ變更シタル場合ニ限ル」トノ言明ハ之ヲ確認セラレタキ御希望ノ旨客年十一月六日附貴翰ヲ以テ御来示ノ趣致敬承候
帝國政府ハ右御来示ノ条件及御希望ノ確認ニ付異存無之依テ貴翰ニ對スル回答タル本書面ヲ以テ本件議定書是認ニ関シ必要ナル文書往復ノ形式ヲ完結スルコトト致度候
右回答申進旁本大臣ハ玆ニ重ネテ閣下ニ向テ表敬意候敬具
註 添附ノ仏訳文ヲ省略ス

四五八 三月二十四日 寺内朝鮮總督ヨリ
牧野外務大臣宛

在鮮各国居留地ノ廃止四月一日実施ノ手順ニ

関スル件

号外

大正三年三月二十四日

朝鮮總督伯爵 寺 内 正 毅 (印)

外務大臣男爵 牧野伸顯殿

各国居留地撤廃議定書承認ニ関聯シ關係各国政府ヨリ照会シ来レル在鮮外国領事館敷地免稅ノ件其ノ他ノ事項ニ関シ先般来及御協議候趣旨ニ拠リ既ニ貴省ヨリ夫々御回答相成候趣ノ処本府ニ於テハ御承知ノ通来ル四月一日ヨリ地方制度整理ヲ実行スルコトニ決定致居リ且各国居留地整理ニ関スル議定書ニ関シテモ英国以外ノ關係国ニ対シテハ之カ承認ノ手續既ニ終了シ英国モ大体ニ於テ該議定書ヲ承認セル次第ニ付一般地方制度整理ト同時ニ各国居留地モ之ヲ廃止スルコトトシ不日關係法規ヲ發布可致候条右御承知相成度此段申進候也

四五九 三月二十五日

牧野外務大臣ヨリ
在本邦英國大使宛

在鮮各国居留地撤廃ニ関スル議定書是認督促

回答ニ依リ貴国政府ニ於テハ充分御了解相成候コトト確信致候ヘトモ万一猶ホ御了解相成ラサル点有之ニ於テハ之ヲ本件是認ノ問題トハ別個ニ解決スルノ条件ノ下ニ至急右議定書ヲ是認相成候様貴国政府ノ御通報ニ接シ度而シテ帝國政府ニ於テハ右ノ御通報ヲ以テ本件是認ニ関スル文書ノ交換ハ完了シタルモノト見做スヘク候尤モ如何ナル場合ニ於テモ貴国臣民カ本件ニ関シ他ノ關係国民ヨリ不利益ノ地位ニ置カルルコトナキハ帝國政府ノ固ク保障スル所ニ有之候右申進旁々本大臣ハ玆ニ重ネテ閣下ニ向テ敬意ヲ表シ候

敬具

四六〇 三月二十五日

牧野外務大臣ヨリ
寺内朝鮮總督宛

在鮮各国居留地廃止ハ英國トノ交渉結了ヲ待

チ実施セラレ度キ件

政送第三七号

本件ニ関シ本月二十四日附号外ヲ以テ来ル四月一日ヨリ各国居留地廃止ノコトヲ御決定ノ趣御申越相成候処御承知ノ通英國政府トノ本件ニ関スル交渉ハ未タ結了ヲ告ケタル次第ニハ無之ニ付目下成ル可右期日マテニ右交渉結了候様在

一六 朝鮮ニ於ケル外国居留地整理一件 四六〇 四六一

ノ件

政送第三〇号

以書翰致啓上候陳者朝鮮ニ於ケル各国居留地撤廃ノ件ニ関シ客年四月二十一日京城ニ於テ調印セラレタル議定書是認方ニ付テハ他ノ關係諸国ニ於テ何レモ異議無之ニ付今般該諸国トハ右議定書是認ノ手續ヲ完了致候而シテ貴国政府ニ於テモ右議定書是認ニ付大体御異議無之モ其ノ是認前予メ満足ナル解決ヲ希望セララルル数点有之趣ニテ先般御申越ノ次第有之右ニ対シテハ本月十七日附書翰ヲ以テ詳細申進置候間既ニ御査閱相済候コトト存候

朝鮮總督府ニ於テハ愈々来ル四月一日ヨリ予テ公布ノ府制(大正二年十月三十日公布制令第七号)ヲ施行スルコトト決定致候而シテ右施行ノ上ハ前記各国居留地ハ廃止セラルヘク候就テハ貴国政府ニ於テモ他ノ關係諸国カ既ニ異議ナク右議定書是認ノ手續ヲ完了シ而シテ単リ貴国政府ヨリ是認ノ御通報無之カ為メ右四月一日ヨリ實施セラルヘキ府制實施ノ計画ニ甚タシキ障害ヲ来スヘキ現狀ナルニ鑑ミ此際速カニ右議定書ヲ是認相成候様希望致候將又右是認ノ件ニ關係シテ解決ヲ希望セララルル諸点ニ付テハ前記帝國政府ノ

本邦英國大使ニ督促中ニ有之交渉ノ結果ハ直チニ御通知ニ及フ可候ニ付満足ナル回答ヲ得タル上ニテ居留地廃止御實行相成候様致度為念此段申進候也

四六一 三月二十五日

牧野外務大臣ヨリ
在本邦中国公使宛

在鮮中国居留地四月一日廃止ノ予定ニ付右ニ

關スル小松、富間協定至急承認方要請ノ件

政送第一〇号

以書翰致啓上候陳者在朝鮮各国居留地廃止ニ関シ帝國政府及關係各国政府間ニ協議ノ上議定書ヲ作成調印スルニ至リタル顛末ハ客年八月廿七日附帝國政府ノ覺書ヲ以テ及御通知置候処其後關係諸国政府ニ於テ右議定書ヲ是認シタルニ依リ本年四月一日ヨリ府制(大正二年十月三十日公布制令第七号)ヲ實施シ之ト同時ニ愈々各国居留地ヲ廃止可致候間右ニ御承知相成度將又大正二年十一月二十二日京城ニ於テ小松外事局長及富總領事ノ調印シタル在朝鮮支那共和國居留地廃止ニ関スル協定ハ帝國政府ニ於テ其儘之ヲ承認スルコトニ異存無之而シテ右貴国專管居留地ノ廃止モ亦前頭各国居留地ト同様来ル四月一日府制ノ實施ト同時ニ之ヲ實

六九七

行可致候ニ付貴国政府ニ於テモ至急右協定ヲ承認セラルル様致度候

右申進旁本大臣ハ茲ニ重ネテ閣下ニ向テ敬意ヲ表シ候敬具

註 日本外交文書大正二年第一冊二三六文書附屬書一参看

四六二 三月二十五日 牧野外務大臣ヨリ
寺内朝鮮總督宛

在鮮中国居留地廃止四月一日実施予定二関スル件

政送第三六号

客年十一月二十二日貴府小松外事局長及富支那總領事間ニ調印ヲ了シタル在鮮支那共和国居留地廃止ニ関スル協定承認方ノ儀ニ関シ同日附官秘第二二号貴信ヲ以テ御来示ノ趣了承右ノ協定ハ帝國政府ニ於テ其儘之ヲ承認可致候尚ホ在本邦支那国公使ニ対シテハ本大臣ヨリ在鮮各国居留地ハ来四月一日府制ノ実施ト共ニ廃セラルヘキコト及右日支協定ハ帝國政府ニ於テ其儘之ヲ承認シタルコトヲ通告スルト同時ニ右ノ協定ニ基ク支那居留地ノ廃止モ亦四月一日府制ノ実施ト同時ニ之ヲ実行スヘキヲ以テ同国政府ニ於テ至急右協定承認方及督促置候間右ニ御承知相成度此段申進候也

四六四 三月二十六日 在本邦露国大使ヨリ
牧野外務大臣宛

在鮮各国居留地廃止議定書是認ニ付露国ハ将来本件ニ関シ最惠国待遇ヲ与ヘラルルモノト了解スル旨申出ノ件

Ambassade Impériale
de Russie
No. 180

Tokio, le 13/26 Mars 1914.

Monsieur le Ministre,

J'ai l'honneur d'accuser à Votre Excellence réception de Sa note en date du 20 Mars a. c. sub N 24, concernant l'approbation du Protocole signé à Séoul le 21 Avril 1913 au sujet de l'abolition du système des concessions étrangères, et je ne manquerai pas de communiquer à mon Gouvernement la note précitée.

Il reste bien entendu que si le Gouvernement Japonais juge opportun d'accorder à l'avenir d'autres facilités aux parties intéressées dans cette affaire, la Russie et les ressortissants russes auront également la jouissance des dites facilités en vertu du principe

四六三 三月二十六日 牧野外務大臣ヨリ
在本邦露、米、独、伊各大使及
在本邦白国公使宛

朝鮮總督府ハ在鮮各国居留地ヲ四月一日廃止ノ予定ナル旨通知ノ件

仏国大使 (政送第二三号)
露国大使 (政送第二六号)
米国大使 (政送第二七号)
独国大使 (政送第二六号)
伊国大使 (政送第七号)
白国公使 (政送第二二号)

宛各通

以書翰致啓上候陳者在朝鮮各国居留地廃止ニ関スル議定書是認ニ必要ナル形式ヲ完結セル次第ハ本月二十日附ヲ以テ申進置候処朝鮮總督府ニ於テハ右各国居留地ノ廃止ヲ実行スル府制 (大正二年十月三十日制令第七号) ヲ来四月一日ヨリ施行スル予定ナル趣ニ有之候間右御承知相成度右申進旁本大臣ハ茲ニ重ネテ閣下ニ向テ敬意ヲ表シ候 敬具

註 米国大使宛ノモノニハ英訳文ヲ、其他ノモノニハ仏訳文ヲ添附セリ之ヲ省略ス

de la nation la plus favorisée.
Veuillez agréer, Monsieur le Ministre, l'assurance de ma haute considération.

(signé) N. Malewsky Maléwitch.
Son Excellence
Monsieur le Baron Makino
Ministre des Affaires Etrangères.

(欄外註記)

「大正三年三月二十六日露国大使来省大臣ニ手交」

四六五 三月二十七日 牧野外務大臣ヨリ
在英国井上大使宛 (電報)

在鮮各国居留地廃止議定書是認ニ付英国力朝鮮全部ニ於ケル土地取得ノ權能ヲ要請シ居ル
事態通報ノ件

第三四号

在朝鮮各国居留地廃止ノ件ニ関シ客年四月廿一日京城ニ於テ調印シタル議定書ハ關係諸国政府ノ是認ヲ必要トシ英国以外ノ各国ハ既ニ夫々之ヲ是認セル処單リ英国政府ノミハ朝鮮全部ニ於ケル同国民ノ土地所有權取得ノ權能ハ将来之ヲ制限セサル旨此際帝國政府ノ保障ヲ得ルニ非ザレハ之ヲ

是認スルコト能ハサル旨在本邦同国大使へ訓令アリタル趣ニテ同大使ハ之カ是認ヲ難シトセリ然ルニ右保障ノ請求ハ居留地整理トハ全ク別個ノ事柄ナルノミナラス朝鮮總督府ニ於テハ来四月一日ヲ以テ府制ヲ実施シ居留民団及居留地ノ事務並財産ヲ挙ケテ新行政区劃タル府ニ引継クノ準備既ニ完成シ今更予定ノ變更ヲ絶対ニ許ササル事情アルカ故ニ英國政府ノ是認ナキハ帝國政府ノ頗ル当惑スル処ナリ且將來無制限ニ我立法權ヲ拘束スルカ如キ保障ハ到底帝國政府ノ肯ズルコト能ハザル処ニシテ一九一一年二月十六日附當時加藤在英大使ノ公文ニ対スル同年四月廿二日附「サー、エドワード、グレー」ノ返翰ニ於テモ英國政府ハ一旦満足ノ意ヲ表シ又独仏兩國ニテモ同様ノ説明ニテ満足シ居ルモノナルヲ以テ目下頻リニ英國大使ト交渉中ナリ其内或ハ貴官ニ電訓スルコトモアルヘキニ付不取敢御心得迄ニ右電報ス

註 日本外交文書大正二年第一冊二二七文書附屬書ノ別紙乙号参照

四六六 三月二十七日 在本邦独国大使ヨリ
牧野外務大臣宛

註 右訳文ハ日本外務省ニ於テ作成セラレタルモノナリ
在本邦独国大使ノ独逸文書翰ヲ省略ス

四六七 三月二十八日 牧野外務大臣ヨリ
在本邦英國大使宛
在鮮各国居留地廃止ニ關連シ外人ノ土地取得權ハ現行法ノ有効期間存続スベキ旨保障ノ件

附記 三月二十七日松井外務次官ト英國大使トノ会談要領覚書

政送第三二号

以書翰致啓上候陳者在朝鮮各国居留地廃止ノ件ニ關シ本月廿五日附本大臣ノ書翰ヲ以テ得貴意候処本件ニ付昨日閣下及当省松井次官間会见ノ次第ニ依リ本大臣ハ朝鮮ニ於ケル土地所有ニ關スル現行法規ハ新ナル法制ヲ以テ之ニ代ユルマテハ其効力ヲ持續スヘキコトヲ閣下ニ保障スルノ光榮ヲ有シ候

貴国政府カ右ノ保障ヲ以テ満足セラルヘキハ本大臣ノ確信スル所ニ有之候

右申進旁本大臣ハ玆ニ重ネテ閣下ニ向テ表敬意候 敬具

註 本書翰ニ添附セラレタル英訳文ヲ省略ス

在鮮各国居留地廃止議定書ニ対スル關係ノ態度及他国ニ許与セラレタル諸点ニ關シ問合

ノ件

(訳文)

(三月三十日接受)

千九百十四年三月二十七日附

在本邦独国大使 レ ッ ク ス

牧野外務大臣閣下

以書翰致啓上候陳者本月二十日同二十六日附第十五、第十六号貴翰拜承致候右ニ關シ本年一月十四日附当方覚書第一号ヲ以テ申進候条件即チ爾余ノ關係國政府ニ於テ朝鮮ニ於ケル外国居留地撤廃ニ關スル議定書ニ対シ何等異議ナキヤ否ヤノ点ニ關シ御通報ヲ煩シ度將又此際他國ニ対シ許与サレタル諸点ニ就キ御開示相成度切望致候

尚外国人居留地撤廃ニ關スル一九一三年十月三十日附第七号政令ヲ本年四月一日ヨリ実施スルノ御計畫ナル趣御通牒ニ接シタルニ就テハ本月二十六日ヲ以テ松井次官ト協議済ノ事項即チ本件ハ事実上ニ於テ完整シ居ル旨ヲ速カニ当方へ通報セラルヘキコトノ口約ニ付御注意ヲ促シ旁玆ニ閣下ニ向テ重ネテ敬意ヲ表シ候 敬具

(附記)

三月二十七日松井外務次官ト英國大使トノ会談要領覚書(三月二十八日作成)

Memorandum.

At an interview between Mr. Matsui, the Imperial Vice-Minister for Foreign Affairs, and the British Ambassador on the 27th of March with respect to the ratification of the Protocol for the Abolition of the Foreign Settlements in Corea, Mr. Matsui explained that the Japanese Government had, as far as it was possible to make any forecast, no intention of altering the status quo with regard to land ownership in Corea. Assurances to this effect had already been given to His Majesty's Government by Ambassador in London in a Note dated February 16th, 1911; but as His Majesty's Government desired a more definite assurance on this point before agreeing to the ratification of the Protocol in question, it was agreed between the Vice-Minister for Foreign Affairs and the British Ambassador that the form of this assurance should as far as possible be on the lines of that given by Marquis Katsura to Sir Claude MacDonald on the 26th of October, 1910, it being under-

stood that the law of 1910 relating to ownership of land by foreigners in Japan is not applicable to Chosen.

It was also understood that there would be left room for any suggestions which the British Government may consider it necessary to submit to the Imperial Government before the enactment of the said new legislation, although this assurance(dated March 28, 1914) would in no way commit the Imperial Government.

註 右覚書ハ三月二十七日松井次官ト在本邦英国大使トノ間
ノ会谈要領ヲ後日ノ参考ノ為残シ置キタシトノ英国大使ノ
希望申出(三月二十八日)ニ基キ双方協議ノ上作成セラレ
タルモノナリ右ノ結果英国大使ハ松井次官ニ対シ自己ノ責
任ヲ以テ議定書ヲ承認スル旨申越シタリ

四六八 三月二十八日 牧野外務大臣ヨリ
在英國井上大使宛(電報)

英國ハ外国人ノ在鮮土地取得權ニ対スル我保
章ニ満足シ在鮮各国居留地廢止議定書ニ是認
セル旨通報ノ件

第三五号

往電第三四号ニ関シ英国大使ト懇談ノ結果外国人士地所有

ニ関スル一九一〇年ノ法律ハ朝鮮ニ適用セラレサルモノナ
リト雖モ成ルベク一九一〇年十月廿六日桂公爵ト「マクド
ナルド」大使トノ談話ノ趣旨ハ基キ今二十八日付書面ヲ以
テ The regulations relating to the ownership of land
now existing in Chosen would remain in force until
they are replaced by new legislation ノ趣意ヲテ保障
ヲ与ヘタリ英国大使ハ右保障ヲ以テ満足シ其責任ヲ以テ居
留地廢止ニ関スル議定書ヲ是認シ其旨本国政府ニ電報スル
コトニ取計済右為念

註 日本外交文書大正三年第一冊二二七文書附屬書前段参照

四六九 三月二十九日 在本邦英国大使ヨリ
牧野外務大臣宛

英國政府在鮮各国居留地廢止議定書是認ノ件

No. 24

The British Embassy,
Tokyo.

March 29, 1914.

(三月三十日發受)

Monsieur le Ministre.

R. Ambasciata d'Italia
No. 64

Tokio, le 29 mars 1914.

Urgent

Monsieur le Ministre,

J'ai l'honneur d'accuser réception à Votre Excel-
lence de ses notes sous la date du 20 et 26 courant,
N. 6 et 7.

Il est entendu par conséquent que j'approuve au
nom de mon Gouvernement le Protocole signé à
Séoul le 21 avril 1913 avec la réserve que, dans le cas
d'un changement dans la législation de la propriété
foncière en Corée, l'Italie obtiendra le traitement de
la nation la plus favorisée.

Veillez agréer, Monsieur le Ministre, les assu-
rances de ma plus haute considération.

(signé) Guiccioli

A Son Excellence
le Baron Makino

Ministre des Affaires Etrangères

etc., etc.

In reply to the request contained in Your Excel-
lency's Note of the 25th instant I now have pleasure
in informing you that I hereby ratify on behalf of
His Majesty's Government the terms of the Protocol
relating to the abolition of the system of Foreign
Settlements in Korea signed at Seoul on the 21st of
April 1913 by the Representatives of the various Pow-
ers concerned and the Director of the Bureau of
Foreign Affairs in the Government-General of Korea.

I avail myself of this opportunity to renew to
Your Excellency the assurance of my highest con-
sideration.

(signed) Conyngham Greene.
British Ambassador

His Excellency

Baron Makino,

H. I. J. M's Minister for

Foreign Affairs.

四七〇 三月二十九日 在本邦伊国大使ヨリ
牧野外務大臣宛

伊国政府ニ依ル在鮮各国居留地廢止議定書是
認ノ件

四七一 三月三十日 牧野外務大臣ヨリ
在本邦仏国大使宛

在鮮各国居留地廃止議定書ヲ文書交換ノ形式

ニテ是認スル案ニ付回答ノ件

政送第二六号

以書翰致啓上候陳者朝鮮ニ於ケル各国居留地廃止ニ関スル議定書是認ハ文書交換ノ形式ヲ以テ之ヲ為シ度旨本月二十七日附並二十八日附貴翰ヲ以テ御申越相成致敬承候然ルニ右議定書是認ニ関シテハ特ニ文書交換ノ形式ヲ履マス書翰ヲ以テ既ニ各関係国ノ是認ヲ経候加之予テ申進置候通り朝鮮ニ於テハ四月一日ヨリ府制ヲ施行シ其ノ結果右居留地ヲ廃スルコトニ万端ノ準備相整ヒ居リ旁々貴国政府ニ於テモ既ニ從來書翰ノ往復ニテ貴我雙方ノ意思ハ何等誤解ヲ生スヘキ点ナキニ鑑ミ此際他関係国同様文書交換ノ形式ヲ要セサルコトニ御同意相成度候尤モ如何ナル場合ニ於テモ貴国臣民カ本件ニ関シ他ノ関係国民ヨリ不利益ノ地位ニ置カルルコトナキハ帝国政府ノ固ク保障スル所ニ有之候
右申進旁々本大臣ハ玆ニ重ネテ閣下ニ向テ敬意ヲ表シ候

敬具

四七三 三月三十日 牧野外務大臣ヨリ
在本邦独国大使宛

在鮮各国居留地廃止議定書是認ニ対スル關係

国ノ態度及此際他国ニ許与セラレタル諸点ニ

付回答ノ件

政送第一九号

以書翰致啓上候陳者在朝鮮各国居留地廃止ニ関スル議定書是認ノ件ニ関シ他ノ關係各国ニ於テハ右ノ議定書ニ対シ何等異議ナキヤ否ヤノ点及本問題ニ関シ他国ニ対シ許与セラレタル諸点御通知方ニ付本月廿七日附貴翰ヲ以テ御来示ノ趣致敬承候

右御来示ノ第一点ニ付テハ本件議定書ニ対シ異議ナキヲ以テ之ヲ是認スル旨關係諸国ヨリ夫々帝国政府ニ対シ通告有之候間右ニ御承知相成度將又第二点ニ付テハ客年二月二十六日京城ニ於テ本件議定書ニ関スル第二会議ノ席上小松外事局長ノ為シタル「朝鮮全土ヲ通シ領事館トシテ用ヒラルル外国政府ノ財産―土地及建物―ハ総テ国税及府税ヲ免除セラルヘシ但シ右地所ニ対スル永代借地権ヲ所有權ニ變更シタル場合ニ限ル」トノ言明ヲ以テ本件議定書ト同一ノ効

註 仏国大使ノ三月二十七日及二十八日ノ書翰ヲ省略セリ

四七二 三月三十日 牧野外務大臣ヨリ
在本邦露国大使宛

在鮮各国居留地廃止議定書是認ニ関シ露国及

露国臣民ニ対スル最惠国待遇保障ノ件

政送第二七号

以書翰致啓上候陳者客年四月廿一日京城ニ於テ調印セラレタル在朝鮮各国居留地廃止ニ関スル議定書是認ノ件ニ関スル本月二十日附本大臣ノ書翰ハ之ヲ貴国政府ニ具申可相成旨並ニ本問題ニ関シ帝国政府ニ於テ将来他ノ關係諸国ニ何等ノ利便ヲ与フルトキハ最惠国ノ主義ニ基キ同等ノ利便ヲ貴国及貴国臣民ニ附与スヘキモノト御了解相成候旨本月二十六日附貴翰ヲ以テ御来示之趣致敬承候
右御来示ノ通本問題ニ関シ最惠国待遇ヲ貴国及貴国臣民ニ与フルコトハ帝国政府ニ於テ毫モ異存無之処ニ有之候間右様御承知相成度右回答申進旁々本大臣ハ玆ニ重ネテ閣下ニ向テ表敬意候 敬具

註 添附ノ仏訳文ヲ省略ス

力ヲ有セシメ度旨露、仏、自三国政府ノ希望ニ対シ帝国政府ニ於テ之ヲ承諾致候而シテ右三国政府ノ領事館ニ対スル免税ノ特典ト同一ノ待遇ヲ在朝鮮貴国領事館ニ附与スルコトハ帝国政府ニ於テ固ヨリ異存無之而シテ将来如何ナル場合ニ於テモ貴国臣民カ本件ニ関シ他ノ關係国民ヨリ不利益ノ地位ニ置カルルコトナキハ帝国政府ノ固ク保障スル所ニ有之候右申進旁々本大臣ハ玆ニ重ネテ閣下ニ向テ表敬意候 敬具

四七四 三月三十日 在本邦仏国大使ヨリ
牧野外務大臣宛

在鮮各国居留地廃止ニ関シ仏国ハ最惠国待遇

享受ヲ条件トシテ議定書ヲ是認スベキ旨申越

ノ件

Ambassade de la
République Française au
Japon

Tokio, le 30 Mars 1914.

No. 30

(三月三十一日接)

Monsieur le Baron,

S. Exc. M. l'Ambassadeur d'Angleterre a bien voulu me faire connaître hier qu'il avait donné son adhésion au Protocole de Séoul du 21 Avril 1913 et qu'il s'était entendu avec le Gouvernement Impérial au sujet du maintien du régime foncier actuel en Corée et de ses modifications ultérieures.

Je me trouve donc maintenant en mesure de procéder à la ratification du dit Protocole. L'adhésion de mon Gouvernement étant, ainsi qu'il a été spécifié par la lettre de mon prédécesseur en date du 17 Septembre 1913, donnée aux mêmes conditions que celles stipulées par les autres Pays intéressés, les avantages et facilités qui sont ou seront accordés à la Grande-Bretagne ou à toute autre Puissance devront, en conséquence et en vertu de la clause de la nation la plus favorisée, être acquis à la France et à ses ressortissants.

Si Votre Excellence veut bien me confirmer qu'Elle est d'accord avec moi sur ce dernier point, l'entente ainsi établie entre le Gouvernement de la République et le Gouvernement Impérial pourra être considérée comme opérant ratification du Protocole

右閣下ノ御通牒ハ帝國政府ノ深ク満足スル所ニ有之而シテ本大臣ハ本月十七日附本大臣ノ書翰中ニ申述タル処ニ依リ仁川ニ於ケル仁川俱樂部、テニス俱樂部及基督教青年会ノ借地契約ハ府ノ義務中ニ在ルモノトシテ之ヲ引継グノキモノヲ閣下ニ通告スルノ光榮ヲ有シ候

右申進旁本大臣ハ茲ニ重ネテ閣下ニ回テ表敬意候 敬具

四十六 三月三十一日 在本邦白国公使ヨリ
牧野外務大臣宛

在鮮各国居留地廃止議定書是認ノ件

Légation de Belgique

Tokio, le 31 Mars 1914.

(同前日書翰)

No. 126/18.

Annexe.

Monsieur le Baron,

J'ai l'honneur d'accuser la réception à Votre Excellence de Sa communication n° 14, en date d'hier, par laquelle Elle me fait connaître que les Puissances intéressées ne font aucune objection à l'approbation du Protocole de Seoul du 21 Avril 1913, et à la mise en vigueur par le Gouvernement Général de Chosen,

qui ressortira son plein effet à dater du 1er Avril, suivant la notification de la lettre de Votre Excellence en date du 26 de ce mois.

Veillez agréer, monsieur le Baron, les assurances de ma très haute considération.

(signé) Regnault.

Son Excellence

le Baron Makino,

Ministre Impérial des Affaires Etrangères,

etc., etc., etc..

四十五 三月三十一日 牧野外務大臣ヨリ
在本邦英国大使宛

英国政府ノ在鮮各国居留地廃止議定書是認ニ満足ヲ表シ且仁川俱樂部等ノ借地契約引継ニ関シ通告ノ件

政送第三十五号

以書翰致啓上候陳者客年四月二十一日京城ニ於テ調印セラレタル在朝鮮各国居留地廃止ニ関スル議定書ノ規定ヲ閣下ニ於テ貴國政府ノ為是認相成タル旨本月二十九日附貴翰ヲ以テ御来示ノ趣致敬承候

de l'Ordonnance du 30 Octobre 1913, mettant fin au système des concessions étrangères.

Votre Excellence veut bien ajouter que le traitement de la nation la plus favorisée sera accordé à l'avenir aux sujets belges. Je La remercie de cette déclaration dont je prends acte. Elle garantit à la Belgique et aux ressortissants de mon pays, tous les avantages ou facilités qui seront éventuellement donnés à la Grande Bretagne ou à toute autre Puissances.

Dans ces conditions, je n'ai plus aucune objection à adhérer, au nom du Gouvernement du Roi, au Protocole en question.

Je saisis cette occasion de renouveler à Votre Excellence, Monsieur le Baron, les assurances de ma très haute considération.

(signé) C. della Faille

Son Excellence

Monsieur le Baron N. Makino

Ministre des Affaires Etrangères

&c., &c., &c..

四十六 三月三十一日 在本邦中国公使ヨリ
牧野外務大臣宛

在鮮各国居留地廢止議定書及中国居留地廢止

協定承認ノ件

外甲字第十七號

(四月一日接受)

敬啓者接准三月二十五日政送第十號來函敬悉一切當經電呈本國政府今接覆電云朝鮮各國居留地廢止事我國須與各國一律辦理俟各國定議我國即可照辦等因今

來函既稱各國對於朝鮮公共居留地廢止之議定書業經是認現我國自當一律承認至中華民國二年十一月二十二日我國富總領事任在朝鮮中華民國專管居留地之協定書及小松外事局長於貴國大正二年十一月二十二日答覆富總領事之照會既承貴國政府承認我國政府自當一併承認惟關於此次居留地廢止之件

貴國政府如另有許與他國利益之處我國亦應同享此最惠條款之利益合行聲明再小松局長於貴國大正二年十一月二十二日答覆富總領事之照會在各國公共居留地內亦應適用特再聲明專此奉達即希

查照敬頌

日 祺

外務大臣男爵 牧野伸顯閣下

ルルコトアル場合ニハ我國モ亦此最惠條款ノ利益ニ均霑スヘキモノナルコト並ニ小松局長ノ大正二年十一月二十二日附富總領事宛照會(回答)ノ次第ハ各国居留地内ニモ亦適用セラルヘキモノナルコトヲ茲ニ声明致置候間右様御承知相成度此段御通達旁本使ハ茲ニ重ネテ閣下ニ向テ敬意ヲ表シ候

敬具

四七八 四月七日

牧野外務大臣ヨリ
在本邦中国公使宛

中国ニ依ル在鮮各国居留地廢止議定書及支那

居留地廢止協定承認ニ関シ回答ノ件

政送第一二號

以書翰致啓上候陳者客年四月二十一日京城ニ於テ調印セラレタル在朝鮮各国居留地廢止ニ関スル議定書並客年十一月二十二日京城ニ於テ小松外事局長及貴國富總領事間ニ調印セラレタル在朝鮮支那共和国居留地廢止ニ関スル協定及同日附小松外事局長ノ富總領事宛回答ハ貴國政府ニ於テ一併ニ之ヲ承認セラレタル旨並今回ノ居留地廢止ニ関シ帝國政府ニ於テ他國ニ許与スヘキ利益ニハ貴國モ亦均霑スヘキモノナルコト及前記小松外事局長ノ富總領事宛回答ハ各国居

中華民國特任全權公使 陸 宗 興(印)

中華民國三年三月三十一日

(右和訳文)(註 日本外務省作成)

中華民國三年三月三十一日

陸 公 使

牧野外務大臣閣下

以書翰致啓上候陳者三月二十五日附政送第十号貴信ヲ以テ御申越ノ趣敬承致シ候右ニ関シテハ其節本國政府ヘ及電報置候処今般本國政府ヨリ朝鮮各国居留地廢止一件ニ関シテハ我國ハ各国ト一律ニ弁理スヘキ筋合ナルニ付各国ノ議定ヲ俟チテ之ニ依リ弁理スヘキ旨回答ノ次第有之候然ルニ御来示ニ依レハ各国政府ハ已ニ朝鮮各国居留地廢止ニ関スル議定書ヲ是認シタル趣ニ有之候ニ付テハ我國ニ於テモ自ラ當ニ一律之ヲ承認スヘク又中華民國二年十一月二十二日附富總領事ノ在朝鮮中華民國專管居留地ニ関スル協定書及小松外事局長ノ大正二年十一月二十二日附富總領事宛照會(回答)ニ関シテハ已ニ貴國政府ノ承認ヲ經タルヲ以テ我國政府ニ於テモ自ラ當ニ一併之ヲ承認可致候但々今回ノ居留地廢止ニ関シ貴國政府ニ於テ若シ他國ニ利益ヲ許与セラ

留地内ニモ亦適用セラルヘキモノナルコトヲ声明セラルル旨客月三十一日附貴翰ヲ以テ御来示ノ趣致敬承候右御声明ノ次第ハ固ヨリ帝國政府ニ於テ異議ナキ処ニ有之候間右ニ御承知相成度右回答申進旁本大臣ハ茲ニ重ネテ閣下ニ向テ表敬意候 敬具

四七九 四月二十七日

加藤外務大臣ヨリ
寺内朝鮮總督宛

在鮮各国居留地廢止ニ関スル關係諸國トノ交

渉顛末調書送附ノ件

附屬書 在朝鮮各国居留地廢止ノ顛末

政機密送第一六号

朝鮮ニ於ケル各国居留地整理ニ関スル件

本件ニ関シ客年四月二十一日京城ニ於テ調印ノ議定書是認方ニ関シ在本邦關係各国代表者トノ交渉ハ先般円満ニ其ノ局ヲ結ビ客月三十一日ヲ以テ右關係各国政府ト帝國政府トノ間ニ前記議定書ヲ是認スル交渉ヲ完結致候次第ハ御承知ノ通ニ有之候処右交渉顛末別冊ノ通ニ有之候条委細ハ別冊ニテ御承知相成度此段申進候也

(附屬書)

(別冊)

在朝鮮各国居留地廃止ノ顚末

(大正三年四月政務局調)

韓国併合ノ後始末タル在朝鮮各国居留地廃止ニ関シテハ帝國政府ニ於テ關係各國政府ト協議ノ上之ヲ行フヘキ旨予テ各国ヘ言明セル次第アリ而シテ帝國政府ニ於テハ右各国居留地ヲ廃止スヘキ時期ニ達シタルモノト認メタルニ依リ關係各国タル英、露、米、独、仏、伊、白等ノ在本邦代表者ト協議ノ上本件問題カ主トシテ地方的性質ヲ有スルニ鑑ミ帝國政府ハ小松朝鮮總督府外事局長ヲシテ又關係各国ハ各其在仁川領事官ヲシテ京城ニ於テ下協議会ヲ開催セシメタル結果大正二年四月二十一日京城ニ於テ在朝鮮各国居留地廃止ニ関スル議定書ニ調印スルニ至リタリ而シテ右議定書ハ關係各國政府ノ是認ヲ待テ確定ノモノト為スヘキ旨予テ帝國政府及關係各国間ニ合意セル処帝國政府ニ於テハ右議定書ヲ其儘是認方閣議ニ於テ決定(大正二年八月十五日附閣議決定指令)シタルヲ以テ在本邦仏國大使ヘハ同月二十六日附ヲ以テ又在本邦英米独露伊白各国代表者ニ対シテハ同二十七日附ヲ以テ書翰往復ノ形式ニ依リ本件議定書ヲ其

以テ督促ノ公文ヲ送り其解決ヲ希望セル諸点ニ付テ万一帝國政府ノ回答ヲ以テ満足セサルモノアラハ之ヲ本件是認ノ問題ト別個ニ解決スルノ条件ノ下ニ至急議定書ヲ是認セラレ度尚本件ニ関シ英國臣民ニ最惠國民ノ待遇ヲ保障スル旨附記セリ

翌二十六日午後英國大使來省松井次官ニ面会ノ上前記保障ノ問題ニ付テハ韓國併合當時ノ往復並桂公爵ト「サー、マクドナルド」ト会谈ノ次第モ有之モ more definite assurance ヲ得ヘキ様子テ本國政府ノ訓令ニ接シ居レル次第ナルヲ以テ此際何等カ帝國政府ノ保障ナケレハ本國政府ヘ議定書是認ニ関シ上申スルコトヲ得サル立場ナル故甚タ当惑スル旨申出アリタリ於是翌二十七日午前松井次官小池局長及兒玉總督府總務局長等本省ニ於テ会谈ノ末同日午後松井次官ハ英國大使ニ面会シ別紙C号ノ公文ヲ与ヘ英國大使ハ本國政府ヘ電稟方取計フヘキコトニ相談纏マリタルヲ以テ翌二十八日右ノ公文ヲ同大使ニ送附セリ

先是二十八日正午頃英國大使館書記官來省前日松井次官及英國大使會見ノ顚末ヲ記セル覚書ヲ持參シ記録ノ為保存シ置キ度旨ヲ以テ本省ノ査閱ヲ求ムル旨松田書記官ヘ申出タ

儘是認方夫々帝國政府ヨリ提議セリ而シテ其ノ後英國其他ノ諸國トノ交渉ハ次ノ如シ

英國

本件議定書ヲ其儘是認方提議セル大正二年八月二十七日附牧野大臣ノ公文ニ対シ在本邦英國大使ハ同十月八日附ヲ以テ別紙A号ヲ回答ヲ寄セ本件議定書ノ是認ニ先チ予メ満足ナル解決ヲ要スルモノアリトテ数点ヲ挙ケ就中朝鮮全土ニ於ケル外國人土地所有權取得ノ權能ヲ許与セル現行制度ヲ將來ニ於テモ維持スヘキ旨帝國政府ノ広汎ナル正式保障ヲ要求セリ右ニ対シ帝國政府ハ一二ノ些細ナル点ハ兎ニ角其主眼トモ認メラルル点即前記ノ保障ヲ与フルコトハ本問題カ韓國併合當時日英兩國間ニ於テ既ニ解決済ナルヲ以テ今更之ヲ考量スルコト能ハス依テ切ニ英國政府ノ反省ヲ求ムル旨大正三年三月十七日附ヲ以テ別紙B号ノ通回答セリ然ルニ各国居留地ノ廃止ヲ予期セル府制實施ノ期日ハ四月一日ニシテ実ニ目睫ノ間ニ逼リ一日ヲ忽ニスヘカラサルモノアリ而シテ他ノ關係各國政府及帝國政府ノ間ニハ既ニ本件議定書是認ニ関スル協議纏リタルニモ拘ラス單リ英國政府ノミハ未タ其諾否ヲ回示セサルニ依リ三月二十五日附ヲ

リ松井次官ハ右ノ覚書ニ対スル修正文ヲ記セル書面ヲ前頭公文ト同時ニ英國大使館ヘ送附シ同時ニ同大使館ノ覚書ヲ返却シタル処同夜英國大使ヨリ更ニ修正意見ヲ申越シ結局別紙D号ノ通作成スルコトニ確定シ英國大使ハ自己ノ責任ヲ以テ本件議定書ニ是認ヲ与ヘタル上本國政府ヘ具申スルコトニ便宜取計フコトトナリ翌二十九日別紙E号ノ公文ニ接セリ尚ホ別紙A号及B号中記載ノ通り在仁川俱樂部等敷地契約ニ関スル件ハ該借地契約ヲ府ノ義務中ニアルモノトシテ之ヲ引繼クヘキコトヲ議定書是認ニ関スル往復文書中ニ記入スルコトニ承諾ヲ与ヘアリタルヲ以テ別紙F号ノ通同日附書翰ヲ同國大使ヘ宛發送セリ

(附記) 三月三十日英國大使館書記官 Pallett 來省松田書記官ト会谈ノ際松田書記官ニ対シ英國大使ガ客年十月八日附本件ニ関スル公文(即別紙A号)ヲ帝國政府ニ送附セルハ実ハ各關係國大公使ト一応相談ヲ經タル結果ニ基ケルモノナルヲ以テ這般本件ノ成行ハ松井次官ト英國大使ト會見ノ次第ヲ記セル覚書ヲ除キ之ヲ右各代表者ニ報告スル筈ナリト内話シ別紙C号我公文ノ仏訳文ヲ松田書記官ニ内示セ

独 国

本件議定書ヲ其儘是認方提議セル大正二年八月二十七日附
牧野大臣ノ公文ニ對シ在本邦独国大使ヨリ大正三年一月十
四日附別紙G号ヲ以テ他關係各國政府ニ於テ之ニ同意スル
コト及朝鮮ノ土地所有權取得及讓渡ノ為何レカ他ノ一國ニ
与ヘラルヘキ讓与カ独逸帝國ニ對シテモ亦為サルヘキコト
ヲ條件トシテ之ヲ是認スヘキ旨回答アリタリ

朝鮮ニ於ケル土地所有權取得ノ權能ニ關スル問題ハ韓國併
合當時独国政府ニ於テ特ニ本問題ニ重キヲ置クモノナル旨
明言セル次第モアリ此際同國ヨリ何等カ本問題ニ付注文ア
ルヘキハ寧ロ期待セル所ニシテ敢テ怪シムニ足ラサルモ前
記英國大使來翰(客年十月八日附別紙A号)ト對照スルト
キハ本問題ニ關シ兩國間ニ何等カ打合セヲ為シタルコトヲ
疑ハシメサリシニハアラサリシモ當時之ヲ確知スルニ由ナ
カリキ

前記独国大使ノ公文ニ對シ帝國政府ハ右ノ條件ニ異存ナク
而シテ本書面ヲ以テ本件議定書ノ是認ニ必要ナル文書往復
ノ形式ヲ完結スルコトトシタキ旨大正三年三月二十日牧野
大臣ノ公文ヲ以テ回答シ同二十六日附ヲ以テ他ノ關係各國

代表者ニ与ヘタルト同文ナル四月一日ヨリ府制ヲ實施スヘ
キ旨ノ通告ヲ發セリ

右ニ對シ独逸國大使ハ同月二十七日附ヲ以テ他ノ關係諸國
ニ於テ本件議定書ノ是認ニ對シ異議ナキヤ否ヤ及他國ニ許
与セラレタル諸點ニ就キ開示セラレムコトヲ要求セリ依テ
牧野大臣ヨリ同月三十日附ヲ以テ第一點ニ付テハ他ノ關係
諸國ヨリ本件議定書ニ異存ナク是ヲ是認スル旨通告アリタ
ル旨第二點ニ付テハ露、仏及白國ノ希望ニ依リ領事館敷地
及建物ニ對シ免稅ノ特典ヲ与ヘタルコトアルノミナルカ右
ノ特典ハ之ヲ独逸國領事館ニ附与スルコトハ帝國政府ニ於
テ異存ナキコト並將來如何ナル場合ニ於テモ独逸國臣民カ
本問題ニ關シ他ノ關係國民ヨリ不利益ノ地位ニ置カルルコ
トナカルヘキヲ保障セリ

露國、仏國及白國

在朝鮮各國居留地廢止ニ關スル議定書ヲ其儘是認方提議セ
ル前記牧野大臣ノ書翰ニ對シ在本邦露國大使ハ大正二年八
月三十日附ヲ以テ大正二年二月二十六日京城ニ於ケル第二
會議ノ席上小松外事局長ノ為シタル「朝鮮全土ヲ通シ領事
館トシテ用ヒラルル外國政府ノ財産―土地及建物―ハ總テ

國稅及府稅ヲ免除セラルヘシ但シ右地所ニ對スル永代借地
權ヲ所有權ニ變更シタル場合ニ限ル」トノ言明ヲ確認スル
コトヲ條件トシテ本件議定書ヲ是認スルモノナルコトヲ回
答シ在本邦仏國大使ハ同年九月十七日附ヲ以テ又在本邦白
國公使ハ同年十一月六日附ヲ以テ均シク露國大使ト同様ノ
事項ヲ其希望トシテ陳フルト共ニ他ノ關係諸國カ本件議定
書ヲ是認スル條件ト同一條件ヲ以テ之ヲ是認スルモノナル
コトヲ附言セリ

領事館敷地免稅ノ事項ヲ單リ會議録ニノミ記載シ之ヲ議定
書ニ掲ケサリシ所以ノモノハ全ク之ヲ以テ國際間ノ約定ト
為ササル議定書調印當事者間ノ一致セル意思ナリト一應推
定スルコトヲ得サルニアラサルモ英國政府ニ於テ現ニ前記
ノ如ク広汎ナル難問題ヲ提起シ且獨國ノ条ニ述ヘタルカ如
ク動モスレハ人ヲシテ右ニ關シ關係諸國間ニ協調ノ成立ヲ
疑ハシムル兆候アリ此際此ノ如キ實質上些細ナル問題ニ付
論争ニ日月ヲ費スハ百害アリテ一利ナク寧ロ是等諸國ノ注
文ヲ無條件ニ承諾シ以テ速ニ是認ノ形式ヲ完了シ英國ノ提
起セルカ如キ難問題ニ對シ一切他國ノ容喙ノ途ヲ杜絶スル
ノ反テ上策ナルヲ認メタリ

依テ牧野大臣ハ大正三年三月二十日附公文ヲ以テ在本邦右
三國代表者ニ對シ夫々前記ノ條件ハ帝國政府ニ於テ異存ナ
キ旨ヲ回答シ且本公文ヲ以テ本件議定書ノ是認ニ必要ナル
形式ヲ完結シタキ旨ヲ述ヘタリ

同大臣ハ尚同月二十六日附ヲ以テ右三國代表者ニ對シ朝鮮
總督府ニ於テハ在朝鮮各國居留地ノ廢止ヲ實行スル大正二
年十月三十日制令第七号府制ヲ來四月一日ヨリ實施スル予
定ナル旨夫々通告セリ

然ルニ露國大使ハ同日(即三月二十六日)附公文(別紙H
号)ヲ以テ將來本件ニ關シ露國並同國民ニ最惠國待遇ヲ附
与セラルヘキモノト了解スル旨申越セルニ付帝國政府ハ之
ニ對シ異存ナキ旨同三月三十日附ヲ以テ回答セリ

仏國大使ハ三月二十日附牧野大臣ノ公文ニ對シ同月二十七
日附ヲ以テ予テ本國政府ノ訓令ニ基キ他ノ關係諸國カ悉ク
領事館敷地免稅ノ條件ヲ附加セル本件議定書ノ是認ニ異議
ナキ旨帝國政府ノ通牒ニ接シタル上ニアラサレハ是認ノ形
式タル書翰往復ヲ行フコト能ハサル旨ヲ回答シ來リ尚同月
二十六日附牧野大臣ノ公文ニ對シ同月二十八日附ヲ以テ右
ノ見解ヲ固執セザルヲ得サル旨ヲ述ヘタリ、依テ牧野大臣

ハ三月三十日附ヲ以テ本件議定書ハ特ニ文書交換ノ形式ヲ履マス書翰ヲ以テ既ニ各關係国ノ是認ヲ經タルコト並ニ朝鮮總督府ニ於テハ四月一日ヨリ府制実施ノ準備完整セルコトヲ述ヘ他關係国同様文書交換ノ形式ヲ要セサルコトニ同意セラレ度尤モ如何ナル場合ニ於テモ本件ニ関シ仏国臣民カ他ノ關係国民ヨリ不利益ノ地位ニ置カルルコトナカルヘキコトヲ保障スル旨ヲ述ヘタリ

然ルニ仏国大使ハ英國大使ヨリ英國力既ニ本件議定書ヲ是認セル旨並朝鮮ニ於ケル土地所有ニ関スル現行法ノ維持及改正ニ関シ帝國政府トノ間ニ合意成立セル旨通知ニ接シタリトテ本件ニ関シ仏国及同国民ニ対シ最惠國待遇ヲ与ヘラルヘキコトヲ条件トシテ本件議定書ヲ是認スヘキ旨三月三十日附公文(別紙I号)ノ通申越セリ右ニ対シ牧野大臣ハ三月三十一日附ヲ以テ右ノ条件ヲ承諾スルコト從テ本件議定書ノ是認並四月一日ヨリ在朝鮮各国居留地廃止ハ兩國間ニ何等異議ナク確定セルモノナルコトヲ仏国大使ニ通告セリ

白国公使ハ三月二十八日附ヲ以テ本件ニ関シ關係各国力悉ク本件議定書ヲ是認セル旨帝國政府ノ通告ニ接スルニアラ制実施ノ筈ナル旨同大使ヘ通告セラレタル処同月三十日附ヲ以テ右ノ通告ハ之ヲ本國政府ヘ具申スヘキ旨同大使ヨリ回答アリタリ

伊国

在本邦伊国大使ハ本件議定書是認方ニ関スル大正二年八月二十七日附牧野大臣ノ公文ニ対シ同年九月二十一日附ヲ以テ同國政府ハ右是認ニ付異存ナク同大使ハ是認ニ必要ナル形式タル文書往復ヲ為スノ権限ヲ授ケラレタル旨回答アリタリ

依テ牧野大臣ハ大正三年三月二十日附公文ヲ以テ右同大使ノ公文ニ対スル回答タル本公文ヲ以テ是認ニ必要ナル文書往復ノ形式ヲ完結シタキ旨同大使ヘ回答シ次テ同月二十六日附ヲ以テ他ノ關係諸國代表者ニ対スルト同様四月一日ヲ以テ府制ヲ實施シ在朝鮮各国居留地ヲ廃止スヘキ旨通告セリ

右ニ対シ伊国大使ハ同月二十九日附公文(別紙L号)ヲ以テ朝鮮ニ於ケル不動産ニ関スル法制改正ノ場合ニハ伊国ニ最惠國待遇ヲ与ヘラルヘキ条件ヲ留保シ本國政府ノ名ニ於テ本件議定書ヲ是認スルヘキ旨帝國政府ニ通告セリ

サレハ之カ是認ニ必要ナル文書交換ヲ行フコト能ハサル旨申越セリ

右ニ対シ牧野大臣ハ三月三十日附ヲ以テ本件議定書ノ是認ハ關係各国ニ於テ異議ナキ旨夫々通牒アリタルコト及本件ニ関シ白国民ニ対シ他ノ關係各国国民ヨリモ不利益ナル待遇ヲ与ヘサルヘキ旨ヲ通告セリ

右ニ対シ白国公使ハ三月三十一日附公文(別紙J号)ヲ以テ白國政府ノ名ニ於テ本件議定書ヲ承認スル旨回答アリタリ米國

在本邦米國大使ハ本件議定書是認方ニ関スル帝國政府ノ提議ニ対シ将来右議定書ノ条項ヲ變更スル場合ニ於テハ米國民カ他ノ關係諸國民ヨリモ不利益ナル待遇ヲ受ケサルヘキコトヲ条件トシテ之ヲ是認スルニ異存ナキ旨大正二年十月二日附公文(別紙K号)ヲ以テ回答シ来レリ依テ帝國政府ハ右ノ条件ニ異議ナキニ依リ本公文ヲ以テ是認ノ形式ヲ完結シタキ旨大正三年三月二十日附ヲ以テ牧野大臣ヨリ同大使ヘ回答シタル処右ノ公文ヲ以テ是認形式ヲ完結スル帝國政府ノ提議ヲ承諾スル旨同月二十四日附ヲ以テ同大使ヨリ更ニ申越アリタリ次テ同月二十六日附ヲ以テ四月一日ヨリ府

前頭ノ通り在朝鮮各国居留地廃止ニ関スル英國其他關係諸國トノ交渉ハ本年三月三十一日ヲ以テ円満ニ局ヲ結ビタリ而シテ一方支那モ亦右各国居留地ニ関スル協定文書ノ調印國タルト同時ニ同國ハ仁川、釜山及元山ニ專管居留地ヲ有シ居ルヲ以テ同國ヲシテ右各国居留地ニ関スル議定書ヲ是認セシムルト同時ニ前記同國專管居留地廃止ニ関シ同國ト別ニ協定ヲ為スヲ要シタル処是亦本年三月三十一日ヲ以テ円満ニ局ヲ結ビタルヲ以テ朝鮮總督府ニ於テハ予定ノ計畫通り本年四月一日ヨリ府制ヲ實施スルコトヲ公布シ其ノ結果前記ノ各国居留地及支那專管居留地ハ茲ニ一切廃止セラレ爾後府ノ一部ヲ為スニ至レリ(丁)

註 別紙A号乃至L号省略ス何レモ前掲又ハ日本外交文書大正二年第一冊ニ採録済

四八〇 四月二十七日

加藤外務大臣ヨリ
在英國井上大使宛

在鮮各国居留地廃止ニ関スル關係諸國トノ交

渉顛末通報ノ件

政機密送第三一号

本件ニ関シ往電第三四号及第三五号ヲ以テ申進置候処右ニ

関スル關係諸国トノ交渉今般結了致候ニ付右様御承知相成度猶ホ右交渉顚末ハ委細別冊ニテ御承知相成度此段及通報候也

註 別冊「在朝鮮各国居留地廢止ノ顚末」ハ前掲ニ付省略ス

四八一 四月二十七日 加藤外務大臣ヨリ
在露米、独、仏、伊各国大使及
在白国公使宛

在鮮各国居留地廢止ニ関スル關係諸国トノ交

渉顚末通報ノ件

在露 本野大使宛（政機密送第三二二号）
在米 珍田大使宛（政機密送第三〇号）
在独 杉村大使宛（政機密送第二五号）
在仏 石井大使宛（政機密送第二四号）
在伊 林 大使宛（政機密送第二一号）
在白 山中臨時代理公使宛（政機密送第七号）
各通
本件交渉今般結了候ニ付該交渉ノ顚末別冊ニテ御承知相成度此段及通報候也

註 別冊「在朝鮮各国居留地廢止ノ顚末」前掲ニ付省略ス

在鮮各国居留地及中国專管居留地廢止ニ関シ

通報ノ件

政送第八六号

本件ニ関シテハ客年八月二十八日附政送第一九三号ヲ以テ其成行一応致報告置候処其後朝鮮總督府外事局長及在朝鮮支那總領事ハ商議ノ上別紙写在朝鮮支那共和国居留地廢止ニ関スル協定ニ調印シ且中華會館其他ノ処理方法並支那領事館ノ免税等ニ関シ右兩者ノ間ニ別紙甲号及乙号ノ通公文ヲ往復セルヲ以テ前任牧野大臣ヨリ在本邦支那公使ニ対シ別紙丙号ノ通各国居留地廢止ニ関スル議定書ヲ各国政府ト共ニ是認シタル次第並ニ前記協定及往復公文ヲ帝國政府ニ於テ承認スル旨ヲ通告スルト同時ニ支那ニ於テモ速ニ右承認方及照会候処同公使ヨリ別紙丁号ノ通回答有之而シテ同公使ハ右ニ対シ更ニ帝國政府ノ回答ヲ需メタルヲ以テ別紙戊号ノ通回答ヲ与ヘ此ニ本件ハ完結ヲ告ケ候
尚ホ朝鮮總督府ハ予テ發布セル府制（大正二年十月三十日公布制令第七号）ヲ本月一日ヨリ実施シ在朝鮮支那居留地ハ各国居留地ト共ニ一併廢止セラレ候間右様御承知相成度此段貴官御含迄申進候也

四八二 四月二十七日 山県朝鮮總督府政務總監ヨリ
加藤外務大臣宛（電報）

在鮮各国居留地廢止ニ関スル議定書ハ条約ト

見做シ差支ナキヤ問合ノ件

本月七日官報掲載朝鮮總督府告示居留地廢止ニ関スル議定書ハ法令中ニ記載アル条約ト見做シ差支ナキヤ法令制定ノ必要上御意見承知致シタシ

四八三 四月二十八日 加藤外務大臣ヨリ
山県朝鮮總督府政務總監宛（電報）

在鮮各国居留地廢止議定書ニ関シ「法令中ニ

記載アル条約」ト云フ意味問合ノ件

第一三号

貴電ニ関シ一般法令中ニ所謂条約トハ必ズシモ公式令ニ依ル条約ノミニ限定セラレサルニ付諸法令ノ解釈上本件議定書モ亦条約ト看做スコトヲ得ル場合アリト思考スルモ貴電中「法令中ニ記載アル条約」云々ノ意味明確ナラサルニ付詳細承知シタシ

四八四 四月二十八日 加藤外務大臣ヨリ
在中国山座公使宛

註 添附書類ハ大正二年十一月廿二日京城ニ於テ調印セラレタル「在朝鮮支那共和国居留地廢止ニ関スル協定」和文

及支那文ノ写各卷通甲号及乙号トシテ同日附富總領事及小松外事局長間往復ノ公文写各卷通（大正二年外交文書二三六文書ノ附属書参照）
丙号トシテ本年三月廿五日附在本邦支那公使宛政送第一〇号写卷通、
丁号トシテ中華民國三年三月三十一日附外甲字第十七号陸公使ノ来翰写卷通、戊号トシテ本年四月七日附政送第一二二号在本邦支那公使宛公文写卷通ナリ（丙、丁、戊号書翰前出）何レモ省略ス

四八五 四月二十九日 山県朝鮮總督府政務總監ヨリ
加藤外務大臣宛（電報）

在鮮各国居留地廢止議定書ガ法令ニ所謂条約

ニ該当スルヤ問合ノ事情説明ノ件

貴電第一三号ニ関シ法令中ノ所謂条約トハ本月十一日御裁可ヲ經タル永代借地權ニ関スル制令第一条ニ永代借地權ハ条約ニ別段ノ定メアル場合ノ外土地所有權ニ関スル規定ヲ是レニ準用スル旨ヲ規定セルモノヲ指ス次第ニシテ居留地撤廢ニ関スル議定書及協定書ハ前記条約ノ内ニ包含セラルルモノト看做サントス差支ナキヤ

尚議定書ニ附随セル在鮮各国領事館用土地及建物ノ免除其他ニ関スル外国政府トノ取極中当府ニ於テ相当措置ヲ要スルモノニ就テハ至急詳細ノ御通報請フ

四八六 五月二日 加藤外務大臣ヨリ
山県朝鮮總督府政務總監宛(電報)

在鮮各国居留地廃止議定書法令中ニ所謂条

約ナルヤニ付回答ノ件

第一四号

貴電ニ関シ永代借地権ニ関スル制令ナルモノハ当省ニ於テ全ク承知セス從テ其解釈ヲ決定スルニ由ナシ貴電後段ニ付テハ客月二十七日附ヲ以テ居留地廃止ニ関スル交渉願末在京寺内總督ヘ報告済ニ付右ニテ承知アリタシ

事項一七 朝鮮宣川基督教徒ノ陰謀事件関与一件

四八七 四月十四日 在英国井上大使ヨリ
牧野外務大臣宛

朝鮮總督暗殺陰謀関与者特赦方ノ歎願書転送

ノ件

附屬書 四月十一日附「バルフォア」男爵ヨリ井上大
使宛来翰写
右歎願書送付ノ件

機密公第一七号

大正三年四月十四日 (五月四日接受)

在英

特命全權大使 井上 勝之助(印)

外務大臣男爵 牧野伸顯殿

朝鮮陰謀事件ニ関スル件

朝鮮陰謀事件ニ関シ当国上院議員「バルフォア」男爵ヨリ別紙写ノ通り「サー、アンドリュウ、フレーザー」氏署名ノ書面提出致候ニ付御参考ノ為メ右写茲ニ及御送付候間御閱覽相成度候右「バルフォア」男爵ハ曩ニ本件覆審法

一七 朝鮮宣川基督教徒ノ陰謀事件関与一件 四八七

院ニ係属中該事件ニ関シ前任加藤大使ニ面談ノ次第有之候由ニテ右会谈ノ模様ハ大正元年十二月十七日付機密公第九六号信ニテ報告相成候義モ有之候処今回ノ申出ニ対シテハ何等意見ヲ加ヘズ該書面ハ単ニ本使ニ於テ一応通読シタル旨回答致置候別紙書面写相添ヘ此段得貴意候 敬具

註 日本外交文書第四十五卷第一冊四四八文書

(附屬書)

四月十一日附「バルフォア」男爵ヨリ井上大使宛

来翰写

朝鮮總督暗殺陰謀関与者特赦方ニ関スル「フレーザ

ー」氏ノ歎願書送付ノ件

April 11, 1914.

47, Cadogan Square, S. W.

Dear M. Inouye.

I venture to ask your Excellency to be so kind as to read the paper which I enclose.

I hope I am not taking an undue liberty in transmitting it.